



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2012.2

No.334

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



野鳥の愛玩飼養と密猟問題

埼玉県鳥獣保護員 橋口長和

『野の鳥は野に』。これは、日本野鳥の会の創始者・中西悟堂の言葉である。これは、野鳥が飼い鳥として籠の中で鳴き声や姿を楽しむ対象か、狩猟や食肉の対象でしかなかった時代に、「籠の中の鳥を愛でるのではなく、自然の中にあるありのままの鳥を観察して、その姿や鳴き声を愛でよう」という自らの思いを繰り返し人々に伝え、日本野鳥の会の活動の原点となったものである。

本年の4月からはメジロの愛玩飼養を目的とする捕獲が全国で原則許可されないことになり、野鳥の保護活動においてひとつのマイルストーンとなるので、本稿では、野鳥の愛玩飼養と密猟問題を考えてみたいと思う。

密猟問題シンポジウム

2011年12月17日(土)～12月18日(日)の2日間にわたり、「第19回野鳥密猟問題シンポジウム in おおさか」が開催され、当会から筆者が参加した。テーマは、『野の鳥は野に…愛玩飼養が廃止されるまで』。

メジロの愛玩飼養を目的とする捕獲が原則許可されないことになったのは、日本野鳥の会や全国野鳥密猟対策連絡会(以後、密対連)の長年にわたる活動の大きな成果である。今回の大阪でのシンポジウムは、まさに記念すべき集いの場となり、全国から100名を超える参加があった。

シンポジウムでは、メジロの密猟では、若い雄を捕まえるために、網にかかった雌や気に入らない雄をすべて殺してしまうなど生々しい事例などが報告され、改めて密猟のむごさを考えさせられた。



メジロ

鳥獣保護事業計画改訂基本方針の変更

2011年4月26日の中央環境審議会野生生物部会鳥獣保護管理小委員会で、都道府県が鳥獣保護法に基づき鳥獣保護事業計画(平成24年からの5年計画)を改定するにあたって、環境大臣が示す「鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指針」(基本指針)の案が提示された。

この基本指針案で環境省は、ついに、愛玩飼養目的の野鳥捕獲許可について、「密猟を助長するおそれがあることから、原則として許可しないこととする」との方針を示した。

この日はまだ、正式決定ではなかったが、長年の懸案が解決に向かって進み始めたことに違いはなかった。

野鳥の会などの活動と経過

愛玩飼養制度の廃止については、日本野鳥の会が密対連等の関係団体と共に、強く主張してきたことである。

野鳥をペットとして飼うことは戦前には広く行われていたが、昭和25年に、「好ましくないのを種を限って許可する」として、7種が指定された。昭和53年には「鳥獣は本来自然のままに保護すべきであるという理念にもとるのみならず、鳥獣の乱獲を助長することとなるおそれがあるので、廃止する」として、以後、対象種を減らして来た。そして平成19年ようやく、メジロ1種、1世帯1羽のみ

認める、というところまでこぎつけていた。

しかし、密猟者が愛玩飼養の登録票を見せて警察の取締りを逃れようとするといった弊害が大きく、野鳥密猟問題シンポジウムでもたびたびその問題点が指摘されてきた。

今回、昨年後半からの基本指針の検討にあたり、日本野鳥の会や密対連、飼養許可数の多い西日本の3つのブロック(近畿、中四国、九州・沖縄)は制度廃止を環境大臣に要望し、また中央環境審議会の委員各位にも働きかけを行って来た。こうした多くの活動が実った結果、ついに原則廃止の方針決定に到ったものである。

この基本指針は9月5日環境大臣から告示され、これを受けて都道府県は第11次鳥獣保護事業計画を検討している。今回の指針では、許可できる特別の例外もあるが、すでに長年にわたり、愛玩飼養目的の新たな捕獲を一切許可していない埼玉県の場合では、『許可しない』とされている。

今後更に監視の強化を

今後、飼養許可が出ている野鳥が天寿を全うするに従い、野鳥の愛玩飼養はなくなるはずである。一方、輸入鳥などの問題はまだ残されており、私たちが野鳥の違法飼養に目を光らせ続ける必要がある。

密猟や違法飼養を発見した場合の対応などが、密対連のホームページにQ&A方式で分かりやすく説明されていて参考になる。

<http://www008.upp.so-net.ne.jp/mittairen/>

■密猟対策に関する年表

- 1919年 (T8) 愛玩・野鳥全種が飼養可能
- 1948年 (S23) 新・狩猟法制定 かすみ網による狩猟が禁止に
- 1950年 (S25) 愛玩飼養・メジロ、ホオジロ、ウソ、マヒワ、ウグイス、ヒバリ、ヤマガラ の7種に限定
- 1963年 (S38) 「鳥獣ノ保護及狩猟ニ関スル法律」成立
- 1969年 (S44) 日本野鳥の会「かすみ網対策運動本部」設置
- 1979年 (S54) 愛玩飼養・メジロ、ホオジロ、



ホオジロ

- ウソ、マヒワ、ウグイスの5種に限定
- 1980年 (S55) 愛玩飼養・メジロ、ホオジロ、ウソ、マヒワに限定
- 1989年 (H1) 愛玩飼養に「飼養許可証」と足環装着が義務付けられる
- 1990年 (H2) 日本野鳥の会が「全国かすみ網問題シンポジウム」開催(岐阜県)
- 1991年 (H3) かすみ網の国会請願署名、39万余人分を国会提出。かすみ網の捕獲目的の所持、使用、販売、頒布禁止
- 1992年 (H4) 「全国野鳥密猟対策連絡会」発足
- 1999年 (H11) 愛玩飼養・メジロ、ホオジロどちらかを1世帯1羽のみに限定
- 2002年 (H14) 「鳥獣の保護および狩猟の適正化に関する法律」施行、法27条により「違法に捕獲又は輸入した鳥獣の飼養、譲渡し」等が禁止となる
- 2007年 (H19) 愛玩飼養・メジロ1世帯1羽のみに限定
- 2011年 (H23) 環境省は愛玩目的の野鳥の捕獲を原則不許可

(写真：編集部)

原稿の募集 (詳細は2011年11月号)

「会員増大作戦」のご意見は締め切らせていただきました。原稿をお寄せくださった方々に感謝申し上げます。

改めまして、「最寄りのIBA、公園のフィールドガイド」を募集します。特に公園とは限りません。あなたにとってのIBA(重要野鳥生息地)で結構です。締め切りは今年の3月10日です。(編集部)

2011 年秋 埼玉県タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉研究部

本調査は表1の通り実施され、表2の結果を得ました。多くの方々のご協力に感謝申し上げます。(小荷田行男)

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査日時	天候
天覧山 (飯能市)	195m	佐久間博文ほか19名 武蔵野野鳥の会高橋ほか10名	9月25日(日) 7:15~14:40	曇時々晴

表2 タカの渡り種別観察数

種名	サシバ	ハチクマ	オオタカ	ツミ	ノスリ	トビ	ハヤブサ
数	9	11	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)

註：()内の数字は、調査者が渡りでないと判断した個体数。

埼玉県内年間鳥見ランキング参加のご案内

日本野鳥の会埼玉普及部

当会の鳥見ランキングも今回で第10回目を迎えます。2011年の鳥見総決算として、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加しませんか。

2011年1月1日から12月31日までの間に、埼玉県内で観察した鳥種数および探鳥会参加回数によりランキングを決定します。観察数の多少に関わらず皆様のご参加をお待ちしております。

1, 埼玉県内観察鳥種数ランキング

- ・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。
- ・観察鳥種は当会記録委員会が作成している『埼玉県内鳥類リスト』に記載されているものとし、新種に関しては、記録委員会が認定した時点で加算。
- ・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2, 探鳥会参加回数ランキング

- ・当会主催の探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント(宿泊探鳥会も1ポイント)とします。
- ・探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

3, ランキングの参加方法

- ・当会会員に限ります。良心の元に自己申告してください。
 - ・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号、会員番号を記載して、電子メールまたは下記住所に郵送。
- 4, 新しい方の活躍の場を広げたいので、過去2回以上それぞれの部門で優勝された方は別格扱いとして、今回の表彰の対象からはずさせていただきます。
- ・締切 2012年2月29日(当日消印有効)
 - ・送り先 〒

橋口長和

e-mail:



コミミズク(栗原喜芳)

ヨーロッパムナグロを見てきました

長嶋宏之(蓮田市)

沖縄の鳥友から「ヨーロッパムナグロが沖縄に来ている。沖縄タイムスの一面に、写真入りで日本初記録と大きく載っている」との情報。ヨーロッパムナグロ？ 聞いたことがない名前だ。『フィールドガイド日本の野鳥』には載っていない。

時を同じく、鳥友のMT氏から南西諸島に行きませんかとの誘いがきた。あちら方面は奄美大島までしか行った事がない。南西諸島は初めての地だ。二つ返事で参加申込みをしたのは言うまでもない。

やがて送られてきた旅行詳細を見ると、沖縄本島が計画に入っている。運が良ければ、ヨーロッパムナグロが見られるかも知れない。そこから本腰を入れて調べ始めた。『シギ・チドリ類ハンドブック』(氏原巨雄・氏原道昭著、文一総合出版)を始め、『COLLINS BIRDS GUIDE』や『日本鳥類目録改訂第6版』等によると、チドリ科ムナグロ属は世界で次の4種(斜体文字は学名)

ヨーロッパムナグロ *Pluvialis apricaria*

ムナグロ *Pluvialis fulva*

アメリカムナグロ *Pluvialis dominica*

ダイゼン *Pluvialis squatarola*

ヨーロッパムナグロには *P. a. altifrons* と *P. a. apricaria*、2つの亜種があり、前者は主にグリーンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデンの西部と北部等に、後者は主にブリテン諸島、南スウェーデン、西部と南部ヨーロッパなどに生息しているようだ。沖縄に来たのはどちらなのだろう。納得いくまで調べがつかない間に出発の日が来てしまった。現地に行つて識別できるだろうか。

宮古島の鳥を堪能した後、那覇空港に降りたのは午後3時を過ぎていた。レンタカーの手続きを早々に済ませ、現地に着いたのは午後4時40分。結論から言えばこの日は見当らず、再度出向いた翌日の12時20分。昨日の場所に車が2台。その後ろにつけると、目的の鳥は約30~40m先の畔に1羽で立っていた。

第一印象は、外観はムナグロだがずば抜けて大きく感じた。とにかく証拠写真。カメラのシャッター音が高鳴った。画像を確認しては条件を変え、またシャッターを連射する。数分後、気持ちも落ち着き冷静に見てみると、ムナグロに比べて大きいばかりでなく、

- ①体全体が白っぽく見える。
- ②頭がやけに大きく、バランスが悪い。
- ③顔が鬼瓦のようにいかつい。
- ④足が短い。

ことに気づいた。



ヨーロッパムナグロ 2011年10月 金武
撮影：筆者

しかし、これが本当にヨーロッパムナグロなのだろうか？ 迷いが生じた。同行者の3人も見たことがないので確信が持てない。

図鑑に翼下面がムナグロに比較し、はるかに白いと書いてあったのを思い出す。翼を持ち上げてくれないか。飛んでくれないか。思いは次第に膨らんでくる。その時、「飛んだ！」シャッターを思い切り連射した。この機会を逃したら2度とチャンスはない。



ヨーロッパムナグロ翼下面 2011年10月 金武
撮影：MT氏

間違いなくヨーロッパムナグロだ。いつしか3人の顔に自信が溢れていた。



野鳥情報

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月27日、オナガガモ20羽十。♂の大部分はかなり換羽が進んでいる。バン成鳥1羽、オオバン1羽、キジ♀1羽(小林洋一・小林みどり)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇10月28日 マガモ換羽中の♂1羽、コガモ♀型10羽十。この辺では珍しいトビ1羽、上空を舞う。タヒバリ1羽、農耕地を鳴きながら飛ぶ。今季初認。さえずっているホオジロ♂1羽(小林みどり)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月28日、マミチャジナイ1羽(松原卓雄)。

さいたま市大宮区大宮第三公園 ◇10月29日 午前7時頃、愛犬と散歩。池のアシが刈られて、野鳥観察舎から水面が見やすくなっていた。ヒドリガモ10羽十、ハシビロガモ4羽、ヨシガモ♂2羽。タシギもすぐ近くの水辺に舞い降り、じっくり観察。この池には、毎年ヨシガモが来てくれる。今年も冬鳥続々到来！ 11月2日午前7時半頃、出勤で家を出ると、「ヒッヒッヒッ カタカタ」とジョウビタキの声。斜向かいの家の庭木の天辺にいた！ 今季初認。空をバックにシルエットで、♂♀の判別はできず。ジョウビタキって♀も鳴きましたよね。11月6日午後4時半頃、愛犬と散歩で大宮公園。ポート池北の高木にミヤマガラス4羽。ねぐら入りで集まってきていた。まだ少ないが、年末頃には、例年100羽近くの群れになる。氷川神社本殿裏の杜に、ハシブトガラス、ハシボソガラスと一緒にねぐら入りする(浅見徹)。

さいたま市岩槻区元荒川緑地 北緯35.9416 東経139.7272 ◇10月31日、アリスイ2羽が鳴き交わしていた。友人のM氏の話では10月28日からいるとのこと(長嶋宏之)。

加須市船越 北緯36.1048 東経139.6251 ◇10月17日、遊水地でトモエガモ♀1羽(中里裕一)。

坂戸市西坂戸2丁目 ◇10月31日午前9時、

自宅室内でモーニングコーヒーを飲んでみると「ヒッヒッヒッ」の声。急いで窓を開けて見ると、向かいの公園のネットフェンスの上に、ジョウビタキ♂1羽。今季当地初認。いよいよ冬鳥の渡来だ(増尾隆)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月1日、東沼にヒドリガモが1羽。ここでは近年見たことがない。午前10時頃、カラス100羽の群れが南に向かう。この時間に南に向かって飛ぶのは珍しい。ミヤマガラスだろうか？ 屋敷林でカケスが鳴いた。11月2日、ジョウビタキ♀1羽。ここで今季初認。近頃ヒヨドリの声が小さくなった(長嶋宏之)。

さいたま市北区芝川(石橋～鷲山橋) ◇11月1日、コガモ♀型2羽、バン成鳥2羽、ジョウビタキ♂1羽、♀1羽、他に2カ所で声を聞く(小林みどり)。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇11月3日、キアシシギ1羽、オジロトウネン7羽、ハマシギ30羽十、クサシギ2羽、イソシギ5羽一、イカルチドリ3羽。コハクチョウが前日に2羽飛来したとのことだが移動したらしく、確認できなかった(鈴木敬)。

川島町山ヶ谷戸 ◇11月4日正午頃、太郎右衛門橋すぐ上流右岸の土手を自転車通っていたら、上空をタゲリ20羽十の群れが河川敷の方に飛んでいった。毎年この辺りで見られるが、今季初めて(森本國夫)。

北本市北本自然観察公園 ◇11月7日、ホオジロ♂1羽、ヤマガラ2羽、ジョウビタキ♂2羽、♀1羽、アオジとアリスイの声。他にオオタカ、キセキレイ、カケス各1羽(長嶋宏之)。

吉見町八丁湖 ◇11月7日、オシドリ2羽のつがいが日向で羽繕いしていた。他にダイサギ、アオサギ各1羽、マガモ多数(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇11月12日、綾瀬川でタシギ、イソシギ、アオサギ、コガモ、カルガモ(本多己秀他2名)。

表紙の写真

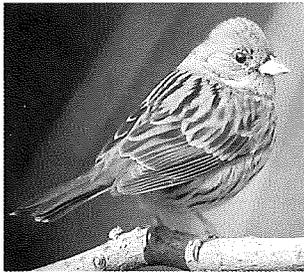
スズメ目アトリ科カワラヒワ属マヒワ

大好物のハンノキの種に、もう夢中です。

新井巖(深谷市)



行事案内



アオジ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所におでかけください。「会員限定」と記載してあるもの以外は、どなたでも参加できます。小学生以下は保護者が同伴してください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。遠慮なく見て、楽しみましょう。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月4日(土)

集合：午前8時45分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時15分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越7:57発、寄居8:04発。

担当：千鳥、大澤、新井(巖)、中村(豊)、鶉飼、持丸

見どころ：雑木林をはじめ、河川敷などの異なる環境で、カラ類の混群、シメ、カシラダカ、アオジなどの冬鳥を探しましょう。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、須崎、倉林、若林、赤堀、藤田(敏)、野口(修)、大井

見どころ：芝川第1調節池周辺で猛禽類5種を期待し、越冬中のカモ類や冬鳥たちを探します。途中にトイレはありません。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、関口、飛田、吉原(早)、相原(修)、相原(友)、長谷川

見どころ：秩父の山々が近くに見えるこの時期は、石戸宿鳥見のベストシーズン。陽だまりを歩き、赤、青、黄色の鳥を探します。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月5日(日)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き9:11発西武バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)、星、水谷

見どころ：武蔵野の豊かな自然が残る園内を歩きます。年1回の開催ですが、毎回のように珍客が出現して盛り上がります。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月9日(木)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR埼京線武蔵浦和駅東口②番バス乗り場から下笹目行き8:40発で「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで

戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀
見どころ：風冷たく寒さ厳しい折で、白雪の富士山や、秩父の山々を見ながらの鳥見です。定番のカンムリカイツブリが主役です。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日（土・祝）

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入口前（土呂駅東口より徒歩約5分）。

担当：青木、工藤、藤原、浅見、有馬、松村、赤坂、阿久澤（廣）、阿久澤（キ）、金子、小林（み）、山田、田中

見どころ：昨年は大雪のため中止で2年ぶりの開催です。2年前のときには42種も出てくれました。今年も期待しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:51発に乗車。

担当：千島、森本、倉崎、栗原、飛田、新井（巖）、鶴飼、岡田

見どころ：空にノスリやオオタカ、野鳥の森ではシロハラ、ルリビタキなどが水飲みに出てくれることを期待しましょう。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月12日（日）

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋（優）、持丸、小林（ま）、水谷

見どころ：カイツブリ科の鳥を見るなら狭山湖！ 運がよければ日本で見られる5種が全部揃うかも…!?

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月12日（日）

集合：午前10時、信越本線横川駅前。

交通：JR高崎線大宮7:51→高崎で信越本線乗り換え9:13発にて終点下車。

解散：午後3時30分頃、横川駅にて。

担当：入山、玉井、浅見、野口（修）、間正、藤澤、星

見どころ：赤、青、黄が勢揃い。ベニマシコは登り坂でエール、道案内はルリビタキ、ミヤマホオジロには出迎えを依頼済み。

ご注意：駅から往復約7km歩きます。高低差、積雪や凍結路面もあり健脚向きです。昼食持参（現地で釜飯の出前も可）。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月18日（土）

集合：午前8時、丸山公園北駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き（畔吉経由）7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、浅見、阿久澤（キ）、阿久澤（廣）、立岩、永野、山野、長谷川、野口（由）

見どころ：昨年は林でアオゲラやアリスイを見ました。今年も出てくれるといいですね。河川敷ではオオタカの飛翔を期待します。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月18日（土）

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から立正大学行き9:10発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過です。費用：入園料400円（子供80円）、65歳以上200円（年齢を証明できるものが必要）。

担当：中村（豊）、藤掛、内藤、佐久間、岡安、藤澤、宇野澤

見どころ：明るい雑木林ですぐ迎えてくれるのはカラ類の混群。年々減少するカモたちは気になるところです。アフターは、花木園のウメ、フクジュソウが見ごろです。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月18日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月19日（日）

集合：午前8時15分、JR京浜東北線北浦和

駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、渡辺、倉林、若林、小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、島山、柴野

見どころ：300回記念の探鳥会を賑やかに行ったと思ったら、はや1年。東日本大震災で見直した仲間の絆を確認しながら、早春の見沼田んぼへお出かけください。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月19日(日)

集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。

交通：JR高崎線本庄駅北口から国際十王バス9:06発伊勢崎行きで「坂東橋南詰」下車。

担当：新井(巖)、倉崎、鶴飼、小池(一)、小池(順)、小淵、千島

見どころ：各所でカモが少ないとの声が聞かれる今シーズンですが、ここでは12月時点で約300羽とまざまざでした。もちろん名物のヨシガモも数多くきています。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月19日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。

担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、杉原、藤澤、山口

見どころ：昨年11月の探鳥会では冬鳥が少なかったのですが、今回はどうでしょう。春の息吹を探しながら土手を散策します。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月26日(日)

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。集合後バスで現地へ。または午前9時、文化公園駐車場(国道16号側)。

交通：東武野田線大宮8:19発、または春日部8:17発大宮行きに乗車。

担当：長野、玉井、吉安、田中、石川、長嶋、榎本(建)、野村(弘)、小林(善)

見どころ：野鳥は季節に敏感で、既に春の準備



1月4日 さぎ山記念公園付近探鳥会

備を始めています。ツグミやシメが真冬と比べてどのように変わってきているか、注意して観察します。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月26日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス2番乗り場から鳩山ニュータウン行き8:51、9:03発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。

担当：千島、藤掛、岡安、志村、増尾、中村(豊)、増田

見どころ：雑木林でカラ類混群やアカゲラ、谷津に下るとベニマシコ、カシラダカが迎えてくれるでしょう。岩殿観音にはルリビタキやミソサザイがいることもあります。

行田市・利根大堰探鳥会

期日：2月26日(日)

集合：午前8時10分、秩父鉄道行田市駅南口、集合後8:19発市内循環バス北東コースでバス停「老人福祉センター」へ。または午前9時、行田市元塚公園駐車場。

交通：秩父鉄道羽生7:49発熊谷行き、秩父鉄道熊谷7:55発羽生行きで、行田市駅下車。解散：午前11時30分頃、現地駐車場にて。

担当：入山、小林(み)、内藤、関口

見どころ：初めての探鳥地です。カモ類を中心に水辺の鳥を探します。川面の風が強く、防寒対策をしっかりとお願いします。

ご注意：帰りのバスは、11:51発です。



行事報告

9月25日(日) 狭山市 入間川

参加：35名 天気：晴後曇

カイツブリ カワウ コサギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種)
(番外：ドバト) 増水した川には浅瀬がなく鳥の姿が少ない。川でみられる鳥は5種類だけ。鳥合わせで気がついたが、なんとカルガモを見た人がいない。ここ数年、冬のカモ類の数と種類が少なく物足りなさを感じているのだが、これからどうなるのか。
(長谷部謙二)

11月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12名

相原修一、新井浩、石井智、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、吉原早苗

11月20日(日) 栃木県 奥日光

参加：35名 天気：晴後雨

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ カワアイサトビ オジロワシ ノスリ ハヤブサ オオバン イカルチドリ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ ツグミ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ アトリ ベニマシコ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 季節外れの暖かさ。オオワシは現れてくれなかったが、代役のハヤブサで盛り上がった。昼食時には、髭が良く見えるほど近くを飛んでくれたし、中禅寺湖畔では、松の上にとじとしてくれて、参加者を喜ばせてくれた。オジロワシとベニマシコは、一部の人しか見られなかった。今年は、例年ならば鳴き声がうるさいほど聞こえるゴジュウカラ、混群のカラ類、また、ツグミやカシラダカ

等の冬鳥たちもほとんどいなかった。11月が暖かかった影響なのか。いつまでこの豊かな自然が残るのか、地球温暖化の影響を考えた。(入山 博)

11月20日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加：26名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ ノスリ チョウゲンボウ キジバン オオバン クサシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種)
(番外：ガビチョウ、ドバト) 駅から歩く途中、カラスにモビングされるチョウゲンボウを見て幸先がいいと思ったが、菅谷館からオオムラサキの森はシジュウカラやガビチョウの声がする位で鳥がいない。ホタルの里でようやく梢にツグミとシメが出てじっくり観察。都幾川沿いの道からセキレイ3種、カワラヒワの群れが見えた。橋を渡り右岸へ。最後尾ではジョウビタキを見たようだ。ノスリが葉の落ちた木に止まっていた。タヒバリは声だけ、アオジはちらっと姿を見せてくれた。畑にいたハクセキレイの中に、過眼線のない個体がいるという声に皆興奮。亜種ホオジロハクセキレイであった。
(千鳥康幸)

11月20日(日) 春日部市 内牧公園

参加：24名 天気：曇後晴

ダイサギ コサギ カルガモ コガモ バン キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 小春日和となったが、肝心の鳥影が全般的に少ない。タヒバリやアオジは既に来ているのに、シメ、ツグミなどがいないのは寂しい限り。後半で林間アスレチックの東、生垣の小径の柿木に群がるエナガ10羽前後に出会い、全員見られたのはハイライトだった。(石川敏男)

11月20日(日) さいたま市 三室地区

参加：62名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオ

サギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ キジ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ドバト) 雨上がりで、見沼たんぼは小春日和。いつものように、にこにこ探鳥する。カモたちも少しずつ出現、芝川の中州でゴイサギが成鳥、若鳥と揃って日向ぼっこ。新人が多くてにぎやかだった。(楠見邦博)

11月23日(水、休) 本庄市 坂東大橋

参加: 43名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ シロチドリ イソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 暖かい日になった。開始前に現れたオオタカは、残念ながら記録外。備前渠のキセキレイとアオジからのスタートとなった。電線に止まるチョウゲンボウ、悠々と舞うトビを見ながら進むが小鳥は少ない。それでも何人かはベニマシコを見た。石ころの河原を通って水際へ。光を浴びたマガモ、ヨシガモの緑が美しい。シロチドリ、タヒバリ、イソシギ、そして遡上したサケも見られた。戻り道ではやっとジョウビタキが全員の前に出現。そしてチョウゲンボウが飛び回り、最後にノスリがバックネットに止まってくれた。(新井 巖)

11月23日(水、休) さいたま市 見沼自然公園

参加: 41名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ ツミ チョウゲンボウ バン オオバン キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 暖かな気持ちの良い日となつ

たが鳥は少ない。ツグミもシメも現れず、ジョウビタキは声だけ。この日のハイライトは、チョウゲンボウとツミとオオタカの絡み合い。初めにチョウゲンボウが現れ、双眼鏡で追いかけていくと、大小2羽の空中戦に発展。てっきり前出のチョウゲンボウとハヤブサ(?)と置いていたら、何か違う! いつの間にかチョウゲンボウがツミと入れ替わり、大きい方はオオタカだった! 少ない出現鳥の中、参加者全員で楽しめた。(浅見 徹)

11月26日(土) 志木市 柳瀬川

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) (番外: ドバト) 小春日和だった。個体数は少なかったが31種の野鳥に会えた。ツグミは最後まで観察できなかったがセキレイ4種、イカルチドリ26羽等柳瀬川探鳥会の常連の野鳥に会えた。アオジは鳥合わせ中に現れた。最後にオオタカが比較的の低空でゆっくり旋回し、参加者を喜ばせてくれた。(持丸順彰)

11月27日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 58名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 出現を危ぶんでいたツグミを遠くだったがスタート直後に見られた。芦原の上を飛ぶキジ、上沼でカワセミ、マガモやオオバン等を見た。田んぼに向かう途中で、木に止まったツグミを今度は間近で見られ、今季初という人も多くて盛り上がった。ジョウビタキ、アオジやオオジュリン等の冬鳥も到来しており、終わってみれば出現鳥は印象より多い35種であった。(玉井正晴)



●渡良瀬遊水地ラムサール条約登録にまた
た一歩前進

2011年12月号本欄で、当会も賛同団体として名を連ねた同年10月16日付け要望書についてご報告しました。その続報です。

12月16日付け下野新聞によれば、提出先のひとつであった栃木市議会は、12月15日の本会議において、「ラムサール条約登録湿地の推進を求める陳情書」を賛成多数で採択し、「ラムサール条約登録湿地反対」の請願3件は不採択としました。

遊水地の条約登録の前提として、鳥獣保護法に基づく鳥獣保護区の指定が必要ですが、国からの事前照会に対し、関係自治体のうち栃木市と栃木県だけが回答を保留し、他は「問題なし」としていました。

渡良瀬遊水地のラムサール条約登録湿地化に大きな前進です。

●会員の普及活動

12月4日(日)坂戸市環境学館いずみ主催のバードウォッチングウォーキング講座が、同館から高麗川沿いに入西こはるが池へのコースで開催され、坂口稔・増尾隆が指導しました。

館長挨拶やコース説明、注意事項その他の後、午前9時20分フィールドに出発。モズを見て「くちばしの形は？」とか、ダイサギとコサギの「くちばしの色、あしの色は？」と違いを確認して識別の勉強をしたり、カワウの目を見て「どんな色？」などと問いかけ、野鳥の観察の仕方、楽しさを理解していただくなどが出来ました。館

に戻り鳥合わせ後、参加者のA君に「田んぼの地面にいたハクセキレイを、チョウゲンボウが襲うところを見ました」と観察発表をしてもらい、12時10分終了しました。

●会員数は

1月1日現在1,948人。

活動と予定

●12月の活動

12月10日(土)1月号校正(大坂幸男・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎・山部直喜)。

12月18日(日)役員会(司会:小林みどり、各部の報告・年末講演会の準備・公民館などからの指導依頼など)。

12月19日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け1月号を発送(倉林宗太郎)。

●2月の予定

2月4日(土)編集部・普及部・研究部会。
2月11日(土)3月号校正(午後4時から)。
2月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。
2月19日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

遠方に巨大ゴミ袋のような物体。双眼鏡で見たらソデグロゾルだった。望遠鏡でアップにしたら、うわっ！ソデも黒いけど、お前、ツラもそうとう黒いよ。赤いはずの部分が泥だらけ。配色的にはクロツラヘラサギと同じ。正月のおめでたいイメージとは、かけ離れていました…(み)

1月号の校正作業は皆さんにお任せして、旅に出ることができました。3月号もそうなる予定。たくさんの人たちに手伝っていただいています。(海)

しらこぼと 2012年2月号(第334号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社